

ジェネリック医薬品は、 こんなに経済的

ジェネリック医薬品は、医療用医薬品です。
おくすりの種類・処方等については、
医師、薬剤師の先生にご相談ください。

薬価・負担額の比較例

※1日1錠365日服用したと仮定

脂質異常症	薬価	1割負担	2割負担	3割負担
先発薬	144.0円	5,256.0円	10,512.0円	15,768.0円
ジェネリック 医薬品	安い タイプ	71.0円	2,591.5円	5,183.0円
	高い タイプ	76.4円	2,788.6円	5,365.8円

差額は？	安いタイプの場合	▲ 2,664.5円	▲ 5,329.0円	▲ 7,993.5円
	高いタイプの場合	▲ 2,467.4円	▲ 4,934.8円	▲ 7,402.2円

※1日1錠365日服用したと仮定

高血圧	薬価	1割負担	2割負担	3割負担
先発薬	52.4円	1,912.6円	3,825.2円	5,737.8円
ジェネリック 医薬品	安い タイプ	14.3円	522.0円	1,043.9円
	高い タイプ	31.9円	1,164.4円	2,328.7円

差額は？	安いタイプの場合	▲ 1,390.6円	▲ 2,781.3円	▲ 4,171.9円
	高いタイプの場合	▲ 748.2円	▲ 1,496.5円	▲ 2,244.7円

※1日1錠365日服用したと仮定

糖尿病	薬価	1割負担	2割負担	3割負担
先発薬	45.8円	1,671.7円	3,343.4円	5,015.1円
ジェネリック 医薬品	安い タイプ	18.7円	682.6円	1,365.1円
	高い タイプ	30.0円	1,095.0円	2,190.0円

差額は？	安いタイプの場合	▲ 989.1円	▲ 1,978.3円	▲ 2,967.4円
	高いタイプの場合	▲ 576.7円	▲ 1,153.4円	▲ 1,730.1円

※上記差額は単純に薬価×365日×窓口負担割合の数字としております。
(小数点第2位を四捨五入)
実際の調剤報酬の計算方法では点数化致しますので、あくまで参考値
としてお考えください。
また、上記はおくすり代だけの一例となります、詳しい負担額について
は薬剤師さんにご確認ください。
令和7年4月現在

「ジェネリック医薬品」の情報サイト

かんじゃさんの薬箱

役に立つ
日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
が運営する「ジェネリック医薬品」の情報サイト
日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会
の質問・各種登録内容変更はこちら
サイトマップ 文字サイズ変更 印刷 大

かんじゃさんの薬箱
ジェネリック医薬品を
学ぼう！
ジェネリック医薬品の検索
あなたが使用している
薬の「ジェネリック医薬品」
を調べることができます

日本ジェネリック医薬品・
バイオシミラー学会の
ホームページ「かんじゃさんの薬箱」では、
処方されたおくすりの名前を入力すると
ジェネリック医薬品が
検索できます。

他にも役立つ情報が満載！

※ホームページのデザイン
や掲載項目は予告なく変
更する場合がございます。

「ジェネリック医薬品」
— Q&A —

「お願いカード」の
ダウンロード

「ご存知ですか？」
バイオシミラー
(一般向けポスター)

<https://www.generic.gr.jp/>

かんじゃさんの薬箱
ジェネリック医薬品
お願いカード
「お願いカード」はHPからもダウンロード可能です
URL https://www.generic.gr.jp/card_gif.html



受診の際、
「ジェネリック医薬品お願いカード」を
提示してジェネリック医薬品の
処方希望を伝えましょう。

注目の医療用医薬品
「ジェネリック」
のすべて

ご存知ですか？
家計にやさしい
おくすりを



ジェネリック医薬品とは？



ジェネリック医薬品は、厚生労働省が先発薬と同等と認めた医薬品です

有効性・安全性と品質は？



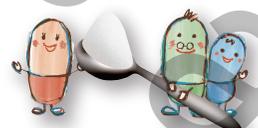
先発薬としての実績が有効成分の有効性・安全性を証明

先発薬の特許期間満了後に発売される薬です。先発薬と同等の効き目で価格もお安くなります。

どちらが、お得？



患者さんの薬代負担の軽減*



日本の薬代を削減し必要な分野にお金を配分

*薬価は先発薬の約2~5割。変更後の支払額は薬剤師さんに確認しましょう。

先発薬



薬機法^{※1}による品質基準クリア

ジェネリック医薬品



薬機法による品質基準クリア

・有効性の確立
・安全性の確立

再審査^{※2}期間
(最大10年)
及び
特許期間
(20~25年)

「品質の評価」による品質確保^{※3}

- ※1 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
- ※2 承認後一定期間が経過した後、企業が実際に医療機関で使用されたデータを集め、承認された効能効果、安全性について、再度確認する制度
- ※3 「後発医薬品品質確保対策事業」による品質確保対策

ジェネリック医薬品入手までの流れ

病院・診療所で

医師から院外処方箋をもらう

薬局で

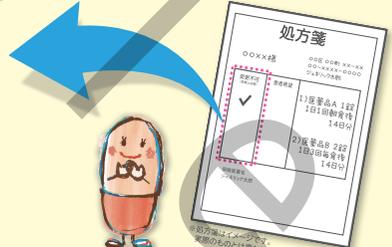
薬剤師さんから説明をうける

ジェネリック医薬品を選択



変更不可
(医療上必要)

医療上の理由等でジェネリック医薬品へ変更すべきではないと判断された場合には医師が変更不可欄に「✓」や「×」の記載をし、保険医署名欄へ署名がされます。



ジェネリック医薬品があるお薬で、先発薬の処方を希望した場合は、特別の料金が発生する場合があります。詳細は薬剤師さんにおたずねください。

Biosimilars

知っていますか？ バイオシミラー

近年、様々な病気の治療法を大きく変えてきたバイオ医薬品は、これまで治療が困難だった病気の治療に貢献する画期的なおくすりです。その反面、高度な細胞培養技術を用いて製造されるため、高い技術力と最新の施設が必要で、医療費がとても高額になり、患者さんの経済的負担が大きいことが問題でした。そこに登場したのが「バイオシミラー」というおくすりです。

バイオシミラーが登場した理由とは？

ご存知のように、医師から処方される医療用医薬品は先発医薬品(新薬)と後発医薬品(ジェネリック医薬品)の2種に分けられます。バイオ医薬品にも、ジェネリック医薬品と同じ位置付けの薬があり、これが「バイオシミラー(バイオ後続品)」と呼ばれています。ジェネリック医薬品と同じように特許が切れたバイオ医薬品を対象に開発されるので、「バイオシミラー」の価格は、新薬として発売された同じ成分のバイオ医薬品(先行品)の70%で算定されるルール[※]があります。経済性に目を向けたとき、「バイオシミラー」はこれからのおくすりの選択肢のひとつとなることでしょう。

※平成26年2月12日 厚生労働省保険局長通知 第7号